

B-44

宿泊施設におけるペットの同伴を可能にしたときの内装仕上材に関する意識調査
 Conscious Survey on Interior Materials when Accommodations Made Possible to Stay with Pets

○宮田敦典¹, 中田善久², 大塚秀三³, 斉藤丈士⁴, 荒巻卓見⁵

*Atsunori Miyata¹, Yoshihisa Nakata², Shuzo Otsuka³, Takeshi Saito⁴, Takumi Aramaki⁵

Abstract: This Paper investigates Conscious Survey on Interior Materials when Accommodations Made Possible to Stay with Pets. Many of The Accommodation Opened in After 2000. Required Performance in Interior Materials Most are Ease of Cleaning, and Performance of The People Looking at Had Been Important.

1. はじめに

近年、少子化等の影響により、ペットの飼育数が増加している^[1]。特に、都市部における近隣問題等の理由に加え、ペットを家族の一員とした考え方から室内で飼育される数が増加しており、その割合は、飼育される数全体の75%を占めている^[2]。しかし、ペットの室内飼育は、ペットにとって快適かつ安全な環境とは言い難く、また、汚れや臭い等の点で多くの飼主を悩ませている^[3]。このような背景から、複数の建材メーカーで飼主のニーズに応えたペット対応建材が開発、販売されている。

宿泊施設は年々減少する傾向にあるものの、ペット同伴可能な宿泊施設は2000年以降、急激に増加している^[4]。これらペット同伴可能な宿泊施設は、より多くのペットが出入りしており、ペットとの共生に対して

様々な工夫を施していると考えられる。松本ら^[5]は、ペット共生住宅のQOL(Quality Of Life: 生活の質)改善の一部としてペット同伴可能な宿泊施設を対象としたアンケートを実施し、現在使用している仕上材およびその仕上材に求める性能を調査している。しかし、この報告は、宿泊施設における内装仕上材の現状の調査に留まっており、宿泊施設がペットの同伴を可能にしたときの室内環境に対する意識は不明確な点が残る。

そこで、本報告は、ペットと共生を始めるときの室内環境に対する意識を明らかにするために、ペット同伴可能な宿泊施設にアンケート調査を行った。ここでは、宿泊施設がペットの同伴を可能にしたときにおける施設の新築または改修時の内装仕上材およびその仕上内装材に求める性能を、各室の用途(廊下、階段および客室)ごとに分けて調査している。

2. アンケート調査

2.1 調査項目

調査項目は、宿泊施設の開業年数およびペット同伴可能とした年数、ペットの同伴を可能にしたときの改修の有無、ペットの同伴を可能にしたときの床内装仕上材および床内装仕上材に求める性能とした。回答は、複数回答可の選択形式とした。

2.2 調査対象宿泊施設および調査方法

本調査の対象は、関東周辺の7県(福島県、栃木県、

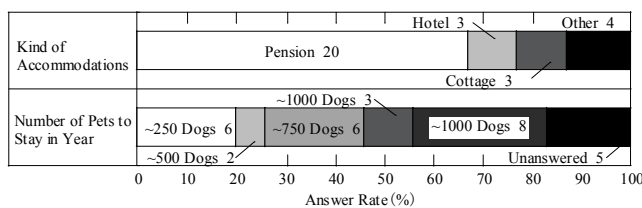


Figure 1. Kind of Accommodations

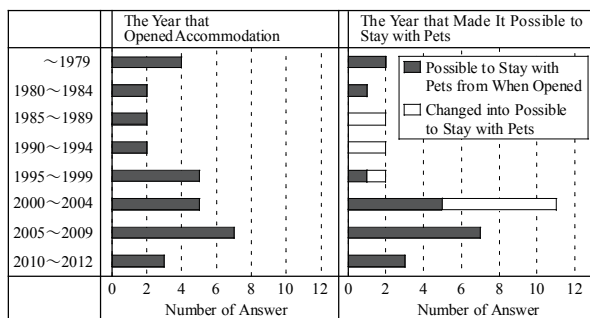


Figure 2. The Year that Opened Accommodation and The Year that Made It Possible to Stay with Pets

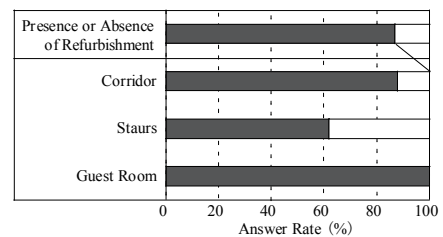


Figure 3. Presence or Absence of Renovation when Accommodation Made Possible to Stay with Pets

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築 3: ものつくり大学・教員・建設 4: 日大生物資源科学・教員・生物環境
 5: ものつくり大学・院(前)・建設

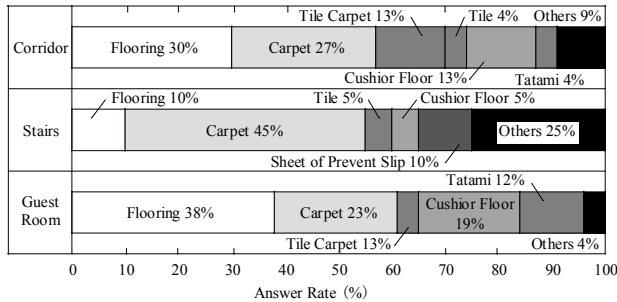


Figure 4. Interior Materials of Floor when Accommodation Made Possible to Stay with Pets

群馬県, 千葉県, 山梨県, 長野県および静岡県) のペット同伴可能な宿泊施設とした。宿泊施設は, ペット宿泊施設情報誌およびインターネットサイトより選定したものとした。

調査方法は, アンケートをメールまたはFAXにて配布し, メール, FAXあるいは郵送にて回収することとした。なお, 調査期間は2012年12月から2013年1月までの2カ月である。

2.3 アンケート回収率

アンケート回収率は, ペット同伴可能な宿泊施設55件に対して30件の55%であった。宿泊施設の種別をFigure 1に示す。宿泊施設の内訳は, ペンションが20件, 旅館が3件, コテージが3件, その他が4件となり, ペンションが約70%を占めた。また, 1年間に宿泊するペットの数は, 最も少ない宿泊施設で100匹, 最も多い宿泊施設で5000匹であった。

3. 調査結果および考察

3.1 ペットの同伴を可能にしたときの改修の有無

宿泊施設の開業年数およびペットの同伴を可能にした年数をFigure 2に示す。ペットの同伴を可能に変更した宿泊施設が11件であり, 半数以上が2000年~2004年に変更していた。これは, ペットと一緒に旅行したいというニーズが高まったことが2000年以降のペット同伴可能な宿泊施設の増加に影響していると考えられる。

ペットの同伴を可能にしたときの改修の有無をFigure 3に示す。ペットの同伴を可能にしたときの改修は87%の宿泊施設が行っており, そのうち客室の改修は全ての宿泊施設で行っていた。一方, コストが掛かる, 現在使用している床内装仕上材に問題がないと感じた等の理由から13%の宿泊施設が改修を行っていなかった。

3.2 ペットの同伴を可能にしたときの床内装仕上材

ペットの同伴を可能にしたときの床内装仕上材をFigure 4に示し, 床内装仕上材に求める性能をFigure 5に示す。廊下は, 多くの人やペットが行き交うため防臭・消臭効果を求めており, 床内装仕上材はフローリ

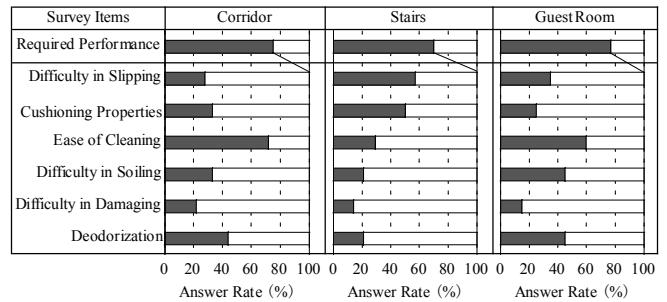


Figure 5. Required Performance in Interior Materials of Floor

ングとカーペットが半数以上であった。階段は, 安全性の考えからすべりにくさやクッション性を求めており, 床内装仕上材はカーペットが多く, すべり止めシートもやや多い結果となった。客室は, 多くのペットが宿泊するため防臭・消臭効果が多く, さらに, 様々な汚れが発生するため汚れにくさを求めており, 床内装仕上材はフローリング, カーペット, クッションフロアの順で多い結果であった。また, 廊下, 階段および客室に共通して掃除しやすさが多く求められていた。このことから, 掃除しやすさは宿泊施設が最も考慮する点であり, 床内装仕上材を選定する際に重要な点であるといえる。

4. まとめ

本調査をまとめると以下のようなになる。

- (1) ペット同伴可能な宿泊施設は, 2000年以降に急激に増加しており, これはペットと一緒に旅行したいというニーズの増加によるものと考えられる。
- (2) 床内装仕上材は, 多くの宿泊施設がペットの同伴を可能にしたときに改修しているものの, 掃除のしやすさなどの人目線の項目が重要とされており, 室内におけるペットの歩行性や安全性を考慮している宿泊施設は僅かであった。

5. 参考文献

- [1] 厚生労働省: 衛生行政報告例, 2011
- [2] 一般社団法人ペットフード協会: 平成24年度全国犬猫飼育実態調査, 2012
- [3] わんにゃンドーム2011運営事務局: 愛犬との住まいに関するアンケート, 2011
- [4] 福井晋: 図解入門業界研究最新ペット業界の動向とカラクリがよーくわかる本, 秀和システム, 2006
- [5] 松本光, 田村雅紀, 金巻とも子: ペット共生住宅のQOL改善を目的とした内装建材性状の評価, 日本建築学会関東支部研究報告集, pp.29-32, 2010.3